



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp



さようなら原発首都圏集会



「座り込めここへ」「真実は沈まない」をリード

9月11日(金)17時～、多くの集会や行動が、コロナの影響で中止となった中、『テント前ひろば』での座り込みは、日替わりの当番者とそれを支える支援者によって1日も休まず継続され、そしてこの日の9.11 経産省テント前ひろば10年目大集会を迎えました。

日音協は、日音協東京都支部、メーデー合唱団、反原発歌いたいの仲間とともに参加しました。日音協には、オープニングとエンディング演奏の他に、集会中に「座り込めここへ」と「真実は沈まない」の歌のリードも依頼されていました。

オープニングで歌ったのは、『安倍の嘘はまだ終わらない』（『安倍の嘘はもう聞き飽きた』の改訂版）、『茱萸坂の祈り』（元歌『山のロザリア』）、『フクシマを繰り返すな』の3曲。この録画はインターネット音楽会にUPしました。

エンディングは、再び『茱萸坂の祈り』を歌い、そして市野さんが作られた『前へ』をコールしながら、参加者と共に歌いました。（坂口美日）

ス々の送り出し演奏

9月18日(金)18時半～、例年であれば、全国集会として開催してきた集会ですが、コロナの影響で集会規模を縮小し、さようなら原発首都圏集会として日比谷野外音楽堂にて開催しました。日音協は、全国に発文しながら、当日は日音協東京都支部、メーデー合唱団、反原発歌いたいの仲間とともに参加し、ス々の送り出し演奏を行いました。

デモ送り出し演奏を行いました。サイレントデモということで、街宣車からの大音量での呼びかけが少なく、出口での日音協の歌が映えたのか、ス々のデモで参加者のノリも良かったのか、送り出し演奏に合わせたの手拍子やエールも多く、元気に歌ってデモを送り出すことができました。（坂口美日）

インターネット音楽会2020を公開中

はたらくもののインターネット音楽祭の続編として、サークルの演奏を動画で撮ったものを共有し、広めるための仕組みとして、日音協のインターネット音楽会2020を立ち上げました。

はたらくものの音楽祭が2020年に開催できないことに代わるインターネットを活用した取り組みの第三弾、8月から12月までの取り組みと位置づけます。各支部、サークル等の積極的な応募をお願いいたします。

演奏等の動画は2020年12月31日(木)まで、準備ができ次第順次公開していきます。9月30日現在、9.11 経産省前テントひろば10年目大集会、「Rico&Tatsu」の動画を公開しています。

「フィンランディア」（希望の歌）インターネット大合唱は公開をもう少しお待ちください。

同時に、インターネット新しいうたの会（日音協ソング2020応募曲）も公開しています。

ぜひ、日音協のホームページからご覧ください。

<http://nichionkyou.org/>

音楽祭の現状と今後のあり方について(案)

■これまでの討議経過

幹事会は、2018年11月の第54回定期総会で「音楽祭の現状と今後のあり方について(案)」を提起し、支部、サークル、全国労組音協などでの議論を要請しました。いくつかの支部から意見書をいただき、2019年6月の全国代表者会議で集中して議論しました。しかし、方針を確立するまでに議論が深まらなかったことから、2019年11月の第55回定期総会において、2022年以降の音楽祭のあり方についての議論を加速させ、2020年7月に開催の全国代表者会議で集中的に議論した上で、2020年11月に開催予定の第57回定期総会までに方針を確立することとしました。各支部に2020年5月7日までの意見提出をお願いし、これを踏まえた中間的なまとめを示しつつ、7月4日の全国代表者会議(zoom ミーティング)で議論してきました。

■討論の範囲

はたらくものの音楽祭のあり方と運動論、日音協そのものの組織の組織論との関係については、連合をはじめとした労働組合の支援を受けながら音楽祭を開催するのかどうか、同窓会としての音楽祭でいいと考えるのか新しいメンバーを迎え入れる機会にすると考えるのか、は、この討論の重要な論点であることから、日音協の運動論・組織論も切り離さずに提起します。

■音楽祭をやめない、続けるということ

音楽祭をやめない、続けるということでは、意見に違いはありませんでした。音楽祭がなければ全国でつながっている意味がないという指摘もあることから、問題は、どういう音楽祭なら続けることができるか、続ける意義があるかです。

■表現にこだわること

労働者が労働者の実態を描くこと、おかしいことをおかしいと言うこと、風刺やコミックソングも含めてその表現こそが日音協が大切にしてきたことです。詩を書こうとする事柄の表面しか見ていないのではないのか、という指摘もありますが、ことがらを深く考えてことばを選ぶ、ということが言われていると思います。

そしてある会員からは、「全身全霊で歌う姿は人の心を揺さぶる」「適当は感動を呼び起さない」との意見が寄せられました。表現＝演奏に全力で集中する作風こそが音楽祭を継続する力になっていることを改めて肝に銘じたいと思います。

音楽祭のステージに立つ団体(個人)ごとに演奏時間は原則6分以内としましたが、6分ではじゅうぶん表現できない、ライブ感がないという意見もありますので、見直すこととします。具体的には11月の『音楽運動』で提案します。

■労働組合とのかかわり

日音協は生い立ちからいっても、みずからを表現する運動とまとめてきたその作風からいっても、労働組合、労働運動とのかかわりが生命線です。2008年11月の総会宣言で、「自立した音楽団体としてむしろ労働組合との連携を強める」、「生活のうた、職場のうた、平和のうたをつくり、うたい、ひろめ、つなぎあうことを柱に、はたらくものの立場にたった音楽運動＝みずからを表現する運動を、職場、地域の中に広げる」、「全てのはたらく者と結び合う」と再確認しています。このようなことから、連合をはじめとした労働組合の支援を受けて音楽祭を開催することは、お金のためには仕方ない、ということではなく、もっと積極的な意味があります。地域の労働組合にステージスタッフ等の派遣を要請しているのも同じ趣旨です。

日音協は音楽団体ですが、日音協の音楽運動そのものが労働運動の一環であるというべきです。私鉄の仲間たちは、私鉄総連として音楽祭のステージに乗ることにこだわっています。私鉄以外にも、労働組合として音楽祭に参加することにこだわっている仲間たちがいます。これを実現、継続していることは重要であり、そのためには、連合と密接に協力する姿を、音楽祭においても明らかにする必要があります。

■新しい仲間を迎えられる音楽祭

日音協運動を労働者の音楽運動として維持・発展させることを考えれば、日音協運動を次の世代に引き継いでいかなければならないことは自明のことです。

音楽祭に絞っていえば、「同窓会でいいのではないか」、「身の丈にあった音楽祭」ということではなく、新しい仲間を迎えることは、絶対条件です。「新しい仲間」と言ったとき、①職場で一緒に労働運動に取り組む人を想定するのか、②地域のライブハウスなどで音楽を取り組む人も多くが労働者であってこういう人を想定するのか、という議論があります。もちろん二者択一ではありませんが、労働組合・労働運動とのかかわりという側面からも、新しい仲間を迎えることのできる音楽祭という点は譲らずにこだわります。

「労働歌や反原発の歌だけでは新しい仲間は増えない」「一般の方にも馴染めるような歌を」という意見もあります。私たちは労働歌や反原発の歌ばかりうたってきたわけではありません。日音協は、広がりがない言葉の羅列でなく聞く人の心に届く詩(ことば)によって、労働者が自らを表現することを大切にしていますし、このことはますます重要です。一方で「祭り(フェス)に近づけるために、もっとライブ感をだせないだろうか?」「若い労働者にも歌ってもらえるような歌を」という意見もあり、議論を深めたいところです。同時に、音楽運動団体である日音協としてより一層末組織労働者に呼びかけることを課題に取り上げます。

■開催地のこと

東京都に集中して開催するべきという意見がありますが、①東京は会場の確保が恐ろしく困難で、しかも費用が高いだけでなく、②毎年同じ地域の労働組合の支援を受けることは極めて困難です。

音楽祭を継続しようと日音協が決意することは、すべての支部、地域の会員が、積極的にその地域で音楽祭を開催する努力をしようということにほかなりません。そのことを前提に、幹事会が調整するにあたっては、地域的にもできるだけ全国の会員が集まりやすいことを配慮することになります。

引き続きいろんな地域の地方連合にお世話にならなければならないことから、連合中央のご了解を前提に、日音協中央が毎年、全国各県の連合に音楽祭開催を文書でお知らせすることとします。

■音楽祭のための費用のこと

音楽祭のための費用は、引き続き全国規模の労働組合、開催県の労働組合、労働組合と関わりのある民主団体等に協賛(プログラム広告)をいただくとともに、参加者分担金によって捻出します。「音楽祭の経費の推移を見ると先細りとは思えない」という意見もありましたが、開催地の努力があって辛うじて維持してきたと言うべきであり、その開催地の努力も回を重ねるごとに困難が増えています。支出の見直しとしては、施設設備費の一層の縮減、地方連合など地域の労働組合に配慮した印刷所をインターネット印刷に切り替える、ステージスタッフの全国からの派遣に取り組めます。

■演奏者負担金のこと

演奏者は従来、1万円を負担していただきましたが、演奏時間の見直しにより変更することとします。具体的には11月の『音楽運動』で提案します。

■今後の討論日程

10月 4日(日)	第10回日音協幹事会
10月23日(金)	各支部等の意見の締め切り
10月25日(日)	第11回日音協幹事会
11月 1日(日)	音楽運動622に掲載
11月14日(土)	日音協総会

日音協SONG2020(作品集)

漢字・かたかな・ひらがな使いなど違っているかもしれません。

●ありがとうの花束

詩・曲 山本英二

お疲れ様でした 今までありがとう
今日の思い出に この歌を歌います
いろんな思い出が 頭に浮かぶけど
あなたは何を今 思っているのでしょうか
いいことばかりじゃなかったとしても
今こうして春は巡ってきた
思い出のあの桜の樹にも
また美しい花が咲くことでしょう
ありがとう 思い出を
ありがとうを心を込めて

お疲れ様でした 今までありがとう
明日の餞(はなむけ)に
この歌を贈ります
あなたの人生に 少しでも立ち会った
私の面影が やがて薄れても
あなたと過ごしたわずかな時が
今私を確かに支えてる
菜の花の咲く 小道を巡ったら
またあの頃の風が吹き渡るでしょう
ありがとう心から
ありがとうを花束にして

●何かしなくちゃ

詩・曲 山本英二

我慢してたんだ 我慢してたんだ
風の吹くほうに 背中を向けて
耳を塞いで 目を反らして
我慢してたんだ 我慢してたんだ
でも 何も変わらな
苦しいだけの毎日 仕事は減らない
減っていく賃金 そう 何も変わらな
こんな世の中は 何もしなくちゃ
何かしなくちゃ AH
からめとられて かすめとられて
気付かないうちに 思い通りに
自分の心 黒く汚され
戻りたいんだ ほんとの自分に
でも 何も変わらない
虚しいだけの毎日 積みあがる仕事

切り捨てられる労働 そう何も変わらない

こんな生活は 何もしなくちゃ

何かしなくちゃ AH
AH 一日が終わる
何も変わらな一日が
夕陽が落ちる 闇がひろがる
何も変わらな 何も
声をかけよう もうひとりの誰かに
同じ苦しみ 感じている誰かに
声をかけよう もうひとりの自分に
あなたの苦しみ 分かち合える誰かに
自分を信じて 明日を信じて

●凶暴の風

詩・曲 宮脇昌典

人のこころ縛る 人がこころ縛る
何も言えなかった あの頃のように
数え切れないほど 失われたいのち
引き換えに手にした 自由と平和
あの頃に帰らせないよう
未来に平和をつなげる
凶暴な風が過ぎ去って人は
自由と平和を誓った

国が違うからと 人種が違うからと
全てを否定して 言葉が荒れ狂う
信じるものが違う
考え方が違う
それだけの理由で
罪人(つみびと)にされてく
ほかの国が攻めてくるかもと
人のこころを波立たせ
言葉を変えて 決まりを変えて
自由と平和ががすむ

人のこころ縛る 人がこころ縛る
何も言わせない あの頃のように
戦争ができる国に 戻させないように
凶暴な風が荒(すさ)んでも
自由と平和を守る

●命を守ろう

詩・曲 瓦井孔二

空母なんか いら
オスプレイも いら
敵基地攻撃 必要
原子力発電所 必要
地震津波 どうする
台風強風 洪水
温暖化に火山
放射能はどうする

命を守ろう
武器など いら
武器など 必要
命を守ろう
命を守ろう

●いつかきっと

詩・曲 瓦井孔二

ぼくたちは歌をつたおう
歌で心つなごう
あなたはあなたの言葉で声で
あなたの思いをのせて
いまは手と手が届かないけど
決してひとりじゃない
いつかきっと声を合わせて
歌える日が来るさ
いつかきっと声を合わせて
歌える日が来るさ



●明日戦争が始まる

詩 宮尾節子

曲 坂口美日

毎日 毎日 満員電車に乗って
人を 人とも思わなくなった
インターネットの書きこみを見て
心を 心とも思わなくなった
虐待死や自殺の頻発に
いのちを いのちと思わなくなった
準備はバッチリだ
戦争を 戦争と思わなくなるために
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる
明日戦争が 戦争が始まる

●地球家族

Life for everyone

詩 JMC/Akita Branch

曲 後藤雅裕

みどりの地球 まあるい地球
みんなともに暮らし行きたい
いきる者すべてのふるさとだから
悲しみと憎しみを笑顔に変えて
貧しい暮らしに別れを告げるために
平和を求める思いをつなぎ
平和な地球築いていこうよ
みどりの地球 ぼくらの地球
抑圧と搾取をなくして行きたい
いきる者すべてのふるさとだから
貧困と差別から解放たれて
果てしない争いに終わりを告げるために
平和を求める思いをつなぎ
笑顔の地球未来にとどけよう

新潟の定番演奏スタイルを



2020年6月27日に、長岡市リリックホール第2スタジオで新潟県支部第4回総会を開催しました。板井、今村、高野、竹内、山田、山本（英）（す）の7人が参加。冒頭のあいさつで板井支部長は、「県支部として活動はあまり進んでいないが、総会は4回を迎えた。新型コロナウイルス防疫で、音楽等各種活動ができない状況が続くが、根絶やしにならないように。県支部はもっと組織的に活動しよう」と呼びかけました。

また、県支部総会あてに、県支部副支部長でもある樋口秀敏県議会議員から「県議会で、医療労働者などの労働環境改善や支援の拡充を求め活動している。一日も早く安心できる日常を取り戻すため全力を尽くす」、日音協松本敏之会長から、「萎縮せず、工夫しながら積極的にうたい、演奏しよう」とメッセージが寄せられました。

活動方針の議論では、はたらくものの音楽祭の今後のありかたについて、全国幹事会での議論状況が報告された後、「現状の財政力や力量を踏まえた形でしか開催できないのでは」「運営等を開催地だけに任せない工夫が必要」などの意見が出されました。

また、今後の県支部の活動に関して、「北信越で曲作りをしている仲間から講師になってもらい、創作合宿をやれないだろうか」「新潟のこの仲間が集まったらこの曲、といった定番の演奏曲や演奏スタイル等ができるとよいし、それらを増やしていければよい」等の意見が出されました。

今後は、ブロック合宿や、新潟県支部の特徴でもある労組の集会等での演奏に向けて準備しながら、この間の課題である幹事会の定例開催を意識したスケジュールを組んでいきます。

（山本英二）

<役員体制>

支部長 板井悌二
副支部長 樋口秀敏
竹内崇史
事務局 山本英二
会計担当 山本すいの



FMカンパニー秋の合宿に深夜の救急車！

「ピーポー、ピーポー」、悶絶する一人の男を乗せた救急車が山里奥深くを走っていく。赤灯が闇の中を遠ざかっていった。9月19日20日、FMカンパニーは秋の合宿をいつもの厚田の別荘で開催した。19日は戦争法強行から5年目にあたる。コロナ禍で、集会で歌う機会が全く無くなり、山の中で思い切り歌おうということだった。



2時半から始まったBBQで話に花が咲き、夜のステージでは入れ替わり演奏がくり広がり、佐藤会長の63歳の誕生日でケーキ入場もあり、酔いも回りさては仕上げの「なんもかんもバンド」の出番を待つばかりのときに事件は起きた。時刻は10時を回ったのだろうか。「おしっこが出なくて苦しい」トイレから出てきたブルートレインの北山は顔をこわばらせながら言った。「救急車を呼んでくれ」

早速、石狩の救急病院に搬送された彼は、カテーテル処理で1リットルもの「排水」をしただけ。前立腺肥大で尿管を圧迫して詰まったという事だ。「もうなんとも無いよ」と1時間後には清々しい声で携帯に電話してきた。ただ病院を追い出された彼は近くのラブホに泊るはめになったが。

翌朝、迎えに行き合宿を再開、昨夜すでに寝ていた3人に改めて騒動の一部始終を報告しひとしきり盛りあがった後に、気を入れ直して各自が創作してきた曲を演奏。この中からリモート音楽祭の発表曲とする予定だ。さて最後に今後CDやDVDを作成する方針を確認して「秋の合宿」は無事？ 終了した。

（磯野宏之）

※全国の仲間の皆さん、健康に留意してください。（北山）

■今後の活動■

・10月24日に予定されていたブービーバンド・ファイナルコンサートは、会場の「パトス」がコロナ対策が出来なく使用不可となった。他の会場も使用条件が厳しく飲物禁止もあり断念。コンサートは来年以降に延期となった。

・ブービーバンド35周年記念（BBBの今までの祭典やライブの映像に新たにミュージックビデオを加えた）DVD、FMカンパニーCD作成を年度末までに完成させる予定。沖縄での全国発売を目指す。



水道橋だより

▼3面、4面で2020日音協ソングの応募曲の詩を掲載したのですが、スペースが足りなくなり、1曲この欄に掲載します。他意はありません。(佐藤)

●わたしたちは生きてゆく

原詩＝2018 沖縄慰霊の日

平和の詩「生きる」相良倫子

元詩＝佐藤康弘

詩・曲＝阿部尚夫

沖縄 島からの風

わたしたちに呼びかける

青く輝く海 しぶきを上げ 光る波

山羊のいななき 畑につづく小道

三線の響き 暑く輝く光

わたしたちは今を生きている

わたしたちは今を生きてゆく

73 年前に死の島となった

火炎放射に追われた子どもたち

燃え尽くされた家 火薬の臭い

降りしきる鉄の雨 逃げ回った日々

わたしたちは今を生きている

わたしたちは今を生きてゆく

摩文仁の丘で誓う 思いをはせて誓う

多くのいのち奪われた

戦争は許さない

もう二度と過去を 未来にはしない

戦力で平和は訪れはしない

わたしたちは今を生きている

わたしたちは今を生きてゆく



来週と再来週は、集会が重なっている。菜葉坂はまだ寂しい状況が続いてうだ。ここにきて歌える方がいればありがたいが、無理はしないことにしよう。今後もしぶとく、粘り強くこの菜葉坂から歌い続けていこう！

歌の力が物語るもの 91

官邸前反原発行動 9/4 (396回) 報告 坂口

【参加者】 長島 満ちゃん、スーさん、狭石啓子さん、森さん、たっちゃん、ようこさん、イサさん、モリヤさん、美日、10人+1人(コミネッチ)

一か月ぶりの菜葉坂。菜葉坂に向かうと、聴きなれた歌声が聴こえてきた。長島さん、満ちゃん、スーさんが歌っている。スーさん、狭石啓子さんも到着。啓子さんは、利美さんが亡くなった以来の久々の参加。上野さんの新曲『菜葉坂の祈り』を歌いにきてくれた。

今日は、菜葉坂での歌行動が始まって8年目の記念日、そして志半ばで亡くなられた3人の仲間を偲び『菜葉坂の祈り』を歌うことが、行動を呼びかけた大きな目的だった。

歌い始めはやっぱり『菜葉坂お出迎えの歌』。「♪みなさんようこそ国会へ♪」と元気に歌い始めたものの、目の前を通過するのは、振り向いてすらくれない省庁役人然の方々ばかり。コロナが恨めしい。

そして『菜葉坂の祈り』。原曲の『山の口ザリア』を知らない方が多かった。森さんのアコギを頼りに歌っていると、そこにギターを担いで列に加わる方が。未来のための合唱で知り合っていて以降、時々菜葉坂でも一緒に歌うようになったモリヤさんだった。早速、ギターで入って頂く。譜割りが複雑な箇所を繰り返し練習した後、改めて菜葉坂で共に歌い志半ばで倒れた3人の方の話をし、故人を

思いながら歌う。歌いながら私の脳裏に浮かんできたのは、放射能にまみれたまま取り壊されて今は跡形もない、葛尾の生まれ育った家。そして、ヨッシーの、利美さんの、当山さんの笑顔……。『♪歌いながら倒れた友と一緒に♪』の歌詞が心に染みる。

次に歌ったのは、『フクシマを繰り返すな』。啓子さんが作った、反原発うたいたい原点の歌。そして、ギター弾きの利美さんと啓子さんのユニット『ツープイス』の看板ソング。ヨッシーも大好きだった。当山さんも大きな声で歌っていた。久々に、反原発を思い、心を一つにして歌った気がした。

初披露のもう一曲、『安倍の嘘はもう聞き飽きた』の新バージョン『安倍の嘘はまだ終わらない』を、原発事故特化で歌った。事故を収束したと言い、放射能を無き物としてオリンピック誘致し、嘘に嘘を重ねて国民を欺き続けた安倍政権に向

かって、この菜葉坂から声をあげ歌ってきた8年。そしてこれからも粘り強く、しつこく歌うぞー、私たちの歌声は沈まないぞー、と心に刻みながら『♪安倍の嘘は まだ終わらない♪』と歌ってやった。

イサさんとモリヤさんは、私たちがお休みしていた8月中旬も、他の行動の後に、この場所に立ち寄っていたとのこと。「今日はみんなの歌が聴こえてきて嬉しかったー」と、心の底から再会を喜んでくれていた。申し訳なく、そしてとても嬉しかった。モリヤさんは、『フクシマを繰り返すな』を耳コピから楽譜にして歌っているそう。今日の行動での、啓子さんとモリヤさんとの出会いもまた、大きな成果かも知れない。

▼最近、若い人を中心に鼻濁音(びだくおん)がなくなりつつあるとのこと。鼻濁音になる音は、例えば乳牛、戦後、上げる、雨傘、大会社、大学、小学校、衆議院議員。▼演歌では鼻濁音が大切にされているが、ポップスでは軽視されているようだ。「津軽海峡冬景色」は「ツガルカイキョーフコゲシキ」で「が、げ」は鼻濁音になる。これを無視されると雪の白さもさゆりちゃんの魅力もかき消されてしまう。▼「これが学校の東のガラヌ製の鏡だ」とがっちり考える外国人「なんて文章があったら、どう声に出して読むか?」この文章の中には8つの「が」という音があるが、すべての「が」を同じ音で読む人と、2種類の「が」の音を交互に使い分けて読む人、ばらばらに読み分ける人など色々に分かれるはず。この「やわらかく鼻にかける力行の音」のことは、現在では学校で教えない。中国地方や九州地方などでは、この鼻濁音で発音する習慣がなくあまり問題にされないようだ。▼アナウンサーの新人研修では、鼻濁音の専門的な発音を徹底させるのだが、教習方法はマンツーマンの教え方しかなかったとのこと。最近パソコンの発達により、これまで特別な機械でなければできなかった音声分析が手軽にできるようになったとのこと。

どん行

(135)

飯島貞親

発達により、これまで特別な機械でなければできなかった音声分析が手軽にできるようになったとのこと。